

ポリファーマシー（多剤併用）について

検査技師 中鉢由香

「ポリファーマシー」とは、簡単に言うと「薬が多い」ということで、一般的に 4～6 剤以上の薬の併用を「ポリファーマシー（多剤併用）」といい、問題視されています。また、患者さんの体の状態に対して必要以上の薬が処方されている状態、例えば症状が治まっているのに薬を服用し続けたり、複数の医療機関から同じような効果のある薬を処方されてしまうことも「ポリファーマシー」と考えられています。

では、なぜポリファーマシーが問題なのでしょう。それは、薬による副作用が起りやすくなったり、他の病気を合併しやすくなるなどの危険があるといわれているからです。薬の数が多くなるにつれて転倒の頻度が上がったり、認知症になりやすくなるという報告もあります。また、薬が多くなればなるほど医療費の負担も多くなります。

ポリファーマシーは特に高齢者に対して問題となっています。高齢者はさまざまな病気を患っていることが多く、薬の数も増加する傾向にあり、ポリファーマシーに陥りやすいといわれています。高齢者は加齢に伴って腎機能・肝機能・心機能・筋肉量などが低下するため、若い人に比べ薬による副作用が起りやすくなってしまいます。その副作用による症状を緩和させるために、さらに薬が処方されてしまうこともあります。

薬が多いことは必ずしも悪いことではありませんが、患者さんに安心して薬を服用していただけるように、このポリファーマシーに対して医師、医療事務、看護師、薬剤師の目線からどのようなことができるのかを、次のページから説明していきます。

【表紙の解説】

- ①整形外科では痛み止めの薬と一緒に胃薬をよく処方します。内科からも胃薬が処方されていましたが、名前が違うので大丈夫だと思っていたら、一方は後発品（ジェネリック）で成分は全く同じものでした。どちらか一方やめることができます。
- ②泌尿器科から頻尿で処方されていた薬は、内科の不整脈の薬と一緒に飲んではいけない薬でした。不整脈の薬か頻尿の薬のどちらかを変更する必要があります。
- ③呼吸器科から喘息や気管支炎で処方されていた薬は、内科の血圧の薬と効果を打ち消し合うような薬でした。喘息がある人に内科のメインテートという薬は使えませんので、別な血圧の薬に変更する必要があります。

☆このような処方をなくすために、ほかの医療機関の薬がわかるお薬手帳はとても効果がありますので、ぜひ活用して下さい。

